令和４年度第４回昭島市青少年問題協議会
昭島市子ども・若者未来対策推進計画策定専門委員会議事要旨

開催日時	令和５年２月９日（金）19:00～20：25
開催場所	アキシマエンシス校舎等２階 201 会議室
出席者	【委員】 紅林　由紀子（委員長）、長野　基（副委員長）、臼井　規次、香月　温子、美座　孝明、指田　守昭、廣光　梅子、佐々木　祐介（昭島警察署長代理） 【事務局】 滝瀬子ども家庭部長、薬袋子ども育成課長、久保田子ども育成支援担当係長
配布資料	・昭島市子ども・若者未来対策推進計画（素案）に係るパブリックコメントの結果について ・「昭島市子ども・若者未来対策推進計画」（素案） ・令和４年度第３回昭島市子ども・若者未来対策推進計画策定専門委員会議事録要旨
傍聴者	１名
議事要旨	１．開会 滝瀬子ども家庭部長 ２．挨拶 滝瀬子ども家庭部長 ３．議題 （１）　昭島市子ども・若者未来対策推進計画（素案）及びパブリックコメントの結果について ・資料に基づき事務局より説明した。 【委員長の進行により質疑応答】 ・４番目の計画の評価推進については、素案の 74 ページのＰＤＣＡサイクルで各施策の実施状況を点検し、青少年問題協議会に報告して公表すると周知されているが、毎年、点検・評価をホームページで公表するのか。 →毎年、点検・評価をするということで青少年問題協議会にも諮る。結果についてはホームページ等で掲載をしていく。評価したことの中で検討事項が出てくるのではないかと思う。 ・実施状況はどんな形で評価し、ホームページで公表されるのか。 →５年度に計画がスタートし、1 年終わった 6 年度に各事業が今回素案に掲載した 3 年度の実績と比較してどうだったのかというところを確認する。件数が出てくるものもあるが、件数が増えたからといって、良い方向になったとは言えないものもあるので、ど

	のように事業が進んだか、またはどのようなことを改善していったらいいのかを担当課に調査し、全体としてどうだったかを見ていくこととなる。 →補足すると、47 ページに示している計画体系の施策の方向ごとに体系化しているので、この施策の方向ごとにまとめて公表する。 →評価の料としては、全事業でどういう状況になったのか、全庁挙げて取り組む。 ・２番のコメントが切ないなと思った。みんな将来の夢があるわけではないのだけどなと思う。焦ることはないよと言ってあげたい。 ・公園でボール遊びができなくなってというコメントに対し、ホームページ等でできる場所を知らせるとある。周知方法としては、素晴らしいと思うが、等の部分が引っかかったので、年齢が低い方にもわかりやすいような広報の仕方を配慮してほしい。 →市の考え方そのものを変えるということはできないが、指摘あった通り表現については対象者にもわかりやすい、いろんな人に読みやすく理解できるよう表現を考える。 ・Ｗｅｂサイトは是非活用してほしい。ただ、このコメントがＧＩＧＡスクール構想の対象に入ってないような年齢の低い方からのものであったとすると、Web サイトにアクセスしづらいこともあると思う。小学校ごとに簡単な絵でわかるものを作る等、工夫をしていただければという意味でホームページ等の等にはそういったことが含まれているといいと感じた。 →施策の展開の中でも、周知の仕方を工夫していきたいと思う。 ・このパブリックコメントは、子どもからのコメントもあったということが素晴らしい。ホームページ、ＬＩＮＥ、ツイッター、市の施設窓口など様々な場所、あと小・中学校での意見募集ポスター、いろいろな手を尽くして、パブリックコメントの実施についてを告知し、案内した結果、いろんな年代の方からの意見があり素晴らしいと感じた。 ・都が子ども育成についての意見募集をしており、子供向けの計画の概要を見てくださいという案内が載っていた。いいものであると感じた。 ・子ども向けのものがあるといいと思う。 ・子どもに対し、ＬＩＮＥやツイッターで市でやっていることや、相談窓口の紹介に容易につながる方法があるといいと感じた。 ・このパブコメは何歳位の方から来たものなのかわかるのか。 →子どもについては、中学校何年生とか小学校何年生とか学年を選んでいただく方式にした。 ・この意見で予測できるのはそんなに年齢が上の方ではないと感じる。読み込んで質問したということではなく、日頃から感じていることを書いたと受け取れる。この膨大なボリュームのものを読んで小学生がコメントしたというのは考え難い。多くの方に発信した結果、関心がある子につながったと思うので、委員長が仰ったように、子ども向けのガイドというのが１つあってもいいのかと思う。子ども本人にも理解してもらい、市の取り組みをわかってもらわないと仕方ない。 ・５ヶ年の計画としては、今年度は、どこにシフトするのか、ピークをどこに合わせるのか全体を見ながら進めていかねばならないと思う。多岐に問題が及んでいて一つのこと

	だけやればいいということではなく、かなりのボリュームで本当にできるのかという感じがある。子育てをしている親や、ひとり親で大変な人たちも救われるところが出てくると思う。良い計画であると感じる。 →我々にとって、大変、心強い嬉しいご意見をありがとうございます。パブリックコメント募集の際は、各学校に概要をまとめたポスターを掲示し、子どもからの意見をもらえるような形をとった。 →アンケート調査結果でも、子どもがスマホを使っているということがあったので、ＱＲコードをつけ、かざすことによって意見が書けるような形にした。興味があるお子さんに手に取ってもらえたと思う。ポスターには、計画素案の内容について、簡単な言葉でまとめた形を表記した。公園のことや安心して生活ができるというような言葉を掴んで意見をくれたものかと思う。 ・1 人でも 2 人でもリアクションがあったことは、やって良かった。 ・素晴らしい。 →この後の展開としては、まだ具体的ではないが、新年度に入り計画がスタートを始めた 5 月あたりに、子どもたちによるワークショップのようなものを開き、この計画についての理解や周知の方法を考えてもらう機会を検討しているところである。当然、今の子どもたちだとＳＮＳというようなことが出てくるかと思う。市のツイッターやインスタをどのように活用できるか担当部署と検討していく。事業は、全庁的に子どもの視点で進めていかないといけない。今年はこのテーマでということで進めていくことは、難しいと感じる。全ての部署でしっかり子どもの視点を持って事業を実施しているかということをチェックしながら事業展開をしていきたいと考えている。 ・社会教育委員の活動の中で「昭島会議」というものがある。昭島の活動団体のうちの教育団体が関わって、グループワークをしているが、その中で一度、オンラインで子どもたちをメインにした「子どもの昭島会議」をやった。参加したのは、ガールスカウトと昭島市で新しくできた未来守というボランティア団体。活動の内容を周知し、強化していくことが目的で、中高生も比較的発言もしていた。次もやりたいと話していた。前回の昭島会議では、拝島中学校の生徒も 2 名。全体で 60 名位の参加であった。周りが全部大人なので、かなり緊張していたが、みんな話をよく聞いてくれていた。大変参考になった。子どもたちの意見を尊重して、ルールを決めてやれば、ミーティングもできる。オンラインでも顔を出したくない子もいるので、そこを統一してあげれば、子どもたちの状況も大きく変化すると思う。 →参考にし、今後検討していきたい。 （1）　昭島市子ども・若者未来対策推進計画（素案）について ・資料に基づき、事務局より説明した。 ・73 ページ以降のページの振りの誤りは修正する。

	【委員長の進行により質疑応答】 ・資料の 86 ページ第 2 回の青少年問題協議会全体会日程の 3 月 7 日は火曜日である。 →修正する。 ・パブコメの市の考え方は、一応こちらにも反映された状態ということか。 →そうである。 ・40 ページの利用者の状況については、確かに事実だと思うが、新型コロナウイルスの拡大で、利用者が半減した。でも、市民図書館の利用は、非常に良い施設でエリアが拡大されたこともあり、登録者が増えているとことを考えると、マインドとして、コロナ禍だからこうだったって片付けてしまうのではなく、コロナの中でもできたことがあったのではないかと感じた。交流センターや児童センターの利用の減少は、市で一元的に人数の制限をしていたことも一番大きい理由だと思うが、コロナ禍だったからこそ考えられることもあったのかと思う。単純な利用状況だけの把握にとどまらず、何かできることがあったら、利用者が半減までいかなかったのではと資料を見ながら感じた。次に、このような不測の事態が起こった時、あるいは未知のウイルス等と戦うというときに、この経験を次に生かすことができれば良い。これは、実態なので本当に仕方がない。いいもの、いい場所には、人が行くのだなとわかった。だからこそ、児童センターや青少年交流センターは、困った時に頼れる、あるいは集える場所であればいいのかなと改めて感じた。こういう資料がないと、こういう思いにも届かないので、すごくありがたいことだなと思った。子どもの将来や若者の未来を考えまようと言っている人たちは、コロナだから仕方がないというのは、もう 3 年もたっているので、もしかしたら、もう口にしてはいけないのかなと最近思っている。 →貴重なご意見に感謝する。コロナということで、国を挙げてイベントは禁止をしていたこともあり、市も制止せざるを得なかった。児童センターとか交流センターなどは、声を出したり騒いだりということがあるので、市民の安全を考えると、どうしてもセーフティの方に、進めていかなければならないというところがある。図書館は、基本的には無言であり、新しくできた施設ということもあり、利用者数が増えたということがあったと思う。ただ、社会の流れとかを柔軟に捉えなければというところでは、市としても今回のコロナの一連の流れの中では感じているところもあるので、参考にさせていただき、検証しながら進めていきたいと思う。 ・このタイミングでこの調査ができたっていうのはすごく良かった。 ・子どもたちに対する施設がそこしかないというのは、どうかと思う。昔、福島会館ができたときに、中学生がたむろし、話し込んでいた。30 分以上そこにいて、声を上げたりもするので、追い出された。本当に、子どもたちは、もっと身近なところに居場所が欲しいのだと思う。児童センターや交流センターは、子どもたちに開放されているが、地理的に遠いところになる場合もあるし、子どもたちが居場所としてどんな過ごし方をしたいか、子どもたちの居場所として、身近な会館などが、生かされるようになったら良いと思う。 ・家の前の稲荷神社は、この寒い今日のような強風の中、小学生が集っていて、体を動か

	して遊んでいたり、ベンチのところで固まってゲームやお喋べりをしている。自由に自分が思うように行動できる時間と居場所というのは、本当に大事だなと思う。 →子どもの居場所については、我々子どもの施策を担当している部署にとっては、昭島に限らず、大きな課題となっている。今ある施設をどのように、また、新たに活用していくかとか合わせていろいろ考えていきたいと思う。 ・空き家等をうまく活用できると良いと個人的には思っている。 ・自治会館や集会所のようなところも活用できればいいかと思う。管理の問題等、難しいと思うが、公のところが少し動いてくれればいいのではないかと思う。 ・12 ページから掲載のある若者の新型コロナウイルス感染症拡大前との変化や精神状態の変化、小中学生や若者の自己肯定感については、全ての原因がコロナなのか、コロナ以外の要因があるのかどうかということを考えることも大事である。 → 5 年計画で次に改定するときに、継続してデータを取っていきたい。 ・この計画における調査の機会でなくとも、他部署等で調査をする時に、肝となる項目だけを入れて、データを取っていくのも良いのではないか。 →市民意識調査等、色々な調査がある中で、調査のタイミングや調査の目的に反しない中で、できるかどうかを検討していきたい。ただ、同じ形の調査でやっていかないと、その流れをつかむのは難しいことや質問が変わるとその答えが変わってしまうこともあるので、その辺も研究、検討をしていきたい。 ・コロナ以前とコロナ後、そこからどう立ち直ったのか、いろいろ工夫し、どのようにやっていけたのかということがあると、よりわかりやすいと思う。 ・ピーポくんの家の登録は、かなり推し進めているという話をよく耳にするが、実際には、住んでいない家があったり、登録について家族に引き継がれていないケースがあるようだ。1 回登録すると、ずっと登録されているままで、機能を果たしていないことが結構あるようだ。登録が増えていくことは、大切だと思うが、逆に機能していないところも精査していかねばならないのではないか。担当は、警察でなく、市の教育総務課か。 ・届け出は市が窓口で交付は警察である。 ・登録した家の住人が今はいるのかどうか、登録をした人は誰だったのかの把握は、とても難しいのか。 ・登録されている方は膨大な数なので難しいでしょう。 ・登録は市が担当なので、機能を果たしていない家について、プレートを外すことは、どのようにしていくべきか警察としては、わからない。 ・登録するのはいいが、立ち行かなくなった時に登録の解除を連絡できるところまでセットになっていたら良い。いざ、駆け込んでみたら助ける人がいないなんていうことになる。 →教育総務課の方に話を伝える。 ・登録を進めるのは大切なことだと思うが、合わせて機能していないものを精査することも大事なのでお願いしたい。 ・不審者に会った時に、子どもがピーポくんの家が貼ってある家に飛び込んだら、不審

	者にとっては、抑止力になり、人が住んでいない家であっても、実際には、機能している形になる。この家は、機能しないからといって、削除してプレートを剥がしてしまうよりは、張りっぱなしでもいいのかなと思う。 ・急場でそういうことがあった時には、そういう効果も確かにあると思う。 ・ただ、実際に機能していないために、せっかく飛び込んでも、結局被害に遭ってしまったということにもなり得るので、きちんと機能する家だけにしてほしいという考えもあるかもしれない。 ・難しい感じだが、点検はした方がいいのかなと思う。 ・登録した方がいらっしゃるかどうか。登録した人が、おじいちゃん、おばあちゃんの世代であっても、引き続きその家の家族にお願いする形にしたほうが良い。全部、市が窓口になってやると難しいので、例えば、ウイズユースや放課後子ども教室等地域で活動する団体に協力をしてもらうのも良いのではないか。 ・安協等とうまく結びついてくれると、より確実なものになるのではないかなと思う。この点はぜひ検討お願いしたい。 →情報を伝えて検討する。 ・この計画案には、各部署それぞれの事業全部が網羅されており、膨大な量になっている。それぞれの必要なニーズに応じての支援が一覧になっているが、市役所の各部署の職員がこれを把握しているのかが疑問。困りごとがあって、勇気を持って市の方に電話をかけてみたのに、たらい回しになり、辛い思いをしてしまう状況を想像した。できれば、ワンストップという形で、担当課へ繋ぐ連携する形となることが望ましいと思う。市役所の職員が、このことに対して、よく理解していくことが重要である。その点は、どんな形で今後、進めていくのか。 →これは非常に大事なところである。厳密な意味でのワンストップは難しいが、今、委員長が言われたような、たらい回しではなく、そこを起点にして繋いでいくということ、それは、今後進めていきたいと思っている。今回、この計画をまとめるにあたっては、新しい事業は作ってない。既存の事業をすべて子どもの視点で横串を刺し、あらゆる事業について子ども視点ということを踏まえて、これから進めていく。子どもに関係ない事業は、基本的にないということで我々はこの計画を進めていきたい。各事業は、本来の主たる目的でやっているところに、子ども視点を入れ、今年はどうだったかを評価させることを、しっかりと庁内の方には浸透させていくつもりである。 ・子ども視点、今までそういう形では語られていなかった。非常に大事なことだと思う。子ども視点であると同時に、やはり子どもを抱える、育てている家庭、家庭の視点も大事にしていただきたいなと思う。少子化の時代に、しきりに子育て子育てと言っているが、そこが非常に大事だと思う。 【最後の専門委員会として各委員より一言ずつ】 ・膨大な資料であるが、これをたたき台として、これから進めてもらうと良いと思う。 ・ずっと青少年に関わった活動をしてきたが、この資料で青少年に対し、すべき取組が

	よくわかった。本当に大変な作業であったと思うが、計画を策定したことで、市民の皆さんにもっと協力が得られやすくなるかと思う。負担にならないように進めていきたい。 ・当初のものから、見栄え、掲載内容、表現も含め、作業が大変であったと思うが、とてもいいものになったと思う。これをしっかりと読み込んで、5ヶ年の計画だが、単年度で色々なものを意見できるぐらい、しっかりと見直していかねばならないと感じる。あわせて、子ども目線でというところが、本当に実行されているのか、常に見ないといけないだろうと思っている。とても良い会議に参加させてもらい、私自身の経験としてとても良かった、ありがたかったと思う。良い形で成果が出るよう、しっかり支援し、サポートしていきたい。 ・将来への期待の項目を見て、子どもたちに夢や希望があるということは良いことだと思った。自分自身の活動の中では、コロナにより、学校に行く機会も少なかった中、こういうアンケートを見ると、捨てたものじゃない、子ども達は上を向いていると思った。このアンケートを活動の参考にさせていただきたいと思う。 ・行政改革鋭く、漏れなく配慮がされていて、単なる前年度からの踏襲じゃない。ヤングケアラーとか時代に関してのバージョンアップもしていて、令和5年度以降のことを見据えられているというのが感じられる素案だった。本当に大変だったと思う。要は皆さんが言うとおり、とてもポジティブな取り組みをしていたというのは、大変勉強になった。 ・見やすく、貴重な資料だと思う。警察の少年係において、青少年に関わることが多いので、今後、策定の際には、関わらせていただければと思う。 ・5年間の計画ということだが、これを当事者である子どもたちにどう還元していくかを考えた。子どもと言っても小学校から高校まで幅があるが、例えば、子ども向けに何かポイントや相談ごとを載せたようなわかりやすいパンフレットを作成していく、あるいは学校の授業で簡単な教材として使えて、内容を子どもたちが共有できるようなものを作成していくことにまで繋げていくのは、可能性としてはあるのか。当事者である子どもが、自分たちの持っている権利というものを知って、そして昭島市はどう考えてくれているのか、悩んだ時の窓口とか、具体的なことが紙媒体などでわかる形になると、非常に良いかと思った。 ・子どもたちが見やすいポスターみたいな感じで、子どもたちが自分で情報を拾っていくことができるものを今後も考えていかなければと思う。この時代、本当に色々あって、サポートすることもあるが、自分で拾いにいかないといけない。現在は、家庭や学校等、色々なところでの教育があるが、地域社会の教育というのも大事にしていくことができれば、子ども達にとっても良いことだと思う。5年後、どうなっているのか。どうしようもない問題や、国が変えていかなければならないことも出てくるのかもしれないが、まずは、良いものができたと思う。 ・子どもが当事者であり、子どもが生き抜く力という言葉があった。子ども達が、自分たちで考えられる、自分たちで情報を取りにいく、授業でこの中身を教材として使ったり、子ども向けのパンフレットにしたりというふうに子どもにそういう力をつけていくとい

	う内容がここにしっかりあるのではと感じた。先程、部長が考えていると言っていた「子どものワークショップ」等で子どもたちが当事者として学び、自分の義務で参画し、そして大人がそれを検挙に受け止める。そういった流れが昭島市の中でできていけば、本当に素晴らしい、これからすごく楽しみになると感じた。 ４．その他 ・今回の素案については、ページの修正を加え、3 月 7 日火曜日に開催の「令和 4 年度第２回青少年問題協議会」の席において、専門委員会からの最終素案として、議題に載せていただきたいと思う。その席で協議していただき、後に、市長の方へ答申をする予定としたい。この専門委員会の委員の方々には、令和３年度からの２年間にわたり、アンケート調査の実施から、計画素案の作成まで、度重なる夜間の委員会へご出席いただき、貴重な意見をいただいたことに感謝申し上げる。また、紅林委員長、長野副委員長には、委員会を和やかに、また、円滑に進めていただいたことに重ねて感謝を申し上げる。 ・本日、机上配付の前回 11 月の専門委員会議事要旨については、昭島市のホームページに掲載予定のため、各自確認の上、修正がある場合は、２月 24 日までに、事務局へ連絡をいただきたい。 ５．開会 【委員長より】 　最後の専門委員会ということで振り返ると、コロナが始まってからの委員会として、２年の間、委員会が中止になったり、リモートになったり、色々なことがあった。 　私自身も非常に勉強になった。また、皆様には、貴重なご意見を頂戴し、ご協力いただき感謝を申し上げる。 【副委員長より】 　２年間、昨年度２回、今年度４回の計６回、青少年問題協議会は、年２回の計４回開催で、コロナ禍の影響で書面開催等もあり、難しいところもあったが、委員会自体はとても活発で、いろんな視点での意見が出た。とても有意義な中身の濃いものだったと思っている。今日、この素案を見て、用語説明を読むだけでも勉強になるなと思った。知らないことがいっぱいあり、もっとみんなに知ってもらいたい、周知していきたいと思い、やってよかったと思う。 　子どもたちを育てるということでは、パブコメの６番目「楽しく生活したい」、これがすべてなのかなと思う。1 人 1 人を大事にし、認めてくれるということが大事だなと思う。この素案の中で、自己肯定感とあるが、自己肯定感を高めるためには、自己有用感を育てなければいけない。自己有用感は、人から頼られている、或いは人の役に立てたということであり、自己有用感を育てるためには、褒められるよりは、認められたいということがある。褒めるというのは、やはり大人目線で、大人がある程度の水準で線引きをして、そこを超えたら「よくできたね」と褒める。その線に行かなければ「もっと頑張

	りなさい」、「まだできるでしょ」となる。 　でも、子どもたちは、その線に行かなくても努力しているわけで、それを認めてほしいと思っている。努力を認めてもらえることが、子どもたちの自己有用感に繋がるということだと思っている。 　その子どもたちのちょっとの努力・進歩・成長をどれだけ見てあげられるかということを大事にしたい。そうすると自己有用感が育って自己肯定感が高められるだろうというふうに思う。我々、専門委員が、それぞれの所属に戻って、そんなことを広めてもらうことがいいのだと思う。昭島の子どもたちが「楽しく生活していきたい」と願うことに、答えてあげたいなと思う。 　貴重な 2 年間ご協力いただいたことに感謝申し上げる。第 4 回昭島市子ども若者未来対策推進計画策定専門委員会を終了する。